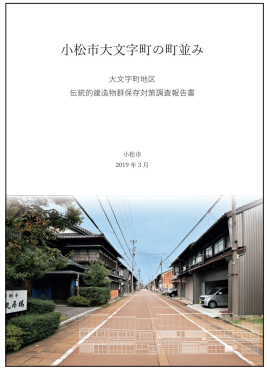
歴史的建築物の保存と活用

11 住み続けられるまちづくりを

研究概要

キーワード　歴史的建築物／文化財保存／大工技術／建築アーカイヴス

金沢をはじめとする石川県内、およびその周辺地域には、戦災や都市開発から免れた数多くの歴史的な建物が残されている。しかし、所有者の世代交代や地域の過疎化、維持・改修費の負担増から、取り壊され、失われていく建物も少なくない。
本研究では、寺院・神社などの宗教建築、民家・町家・数寄屋・茶室などの住宅建築、明治以降の洋風建築や近代建築にいたるまで、実測調査に基づく図面と調査報告書を作成し、その文化財価値を評価する。その上で、文化財保護行政などとの連携により、よりよく建物を残していくための方法を提案する。



建物の実測に基づく図面、調査報告書を作成し、その価値を評価した上で、国登録文化財、市町村指定文化財、伝統的建造物群保存地区などへの推薦を行う。

今後の展開やメッセージ

かつて文化財建造物の保存は「指定されると釘一本打てない」と言われましたが、現在は活用を主とした柔軟な支援制度になっています。貴重な文化的資源を後世に残すために、建物の所有者、管理者の方は、ご一考ください。

研究者情報

山崎 幹泰 教授・博士（工学）
建築学部　建築学科
所属研究所：建築アーカイヴス研究所（所長）、金沢歴史都市建築研究所

研究者情報URL
https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/ADAAJ.html
https://researchmap.jp/read0078143